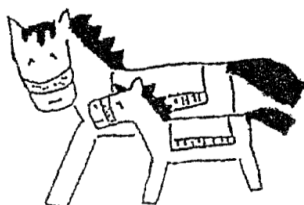


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

24年 3月 NO. 208



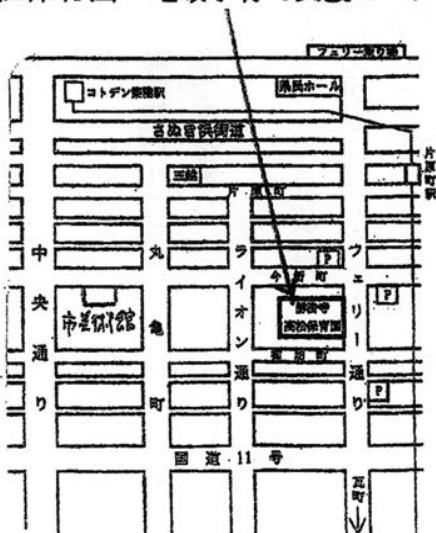
(厚生労働省・高松市委託事業)

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

～どなたでも～		3月の主な活動		～お気軽にどうぞ～	
3月 3日	土	みすゞコンサート 14:00～16:00	金子みすゞさんの詩をオカリナと唄で聴くコンサートです。高松市生涯学習センター3F (高松市片原町1-1 Tel 811-6222)		
3月 9日	金	おはなしの会 10:00～12:00	「春が来た」をテーマにパネルシアターや手あそび、大型絵本など楽しいことがいっぱいです。		
3月 10日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。		
3月 10日	土	おはなしの会 10:00～11:30	木製品の修理や木工製品を つくってみましょう。		
3月 15日	木	香川みすゞさんの会 11:00～13:00	昼食を共にしながら一年間をふりかえったり、詩を読んだりします。(予約要)		
3月 17日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も保育体験に おいで下さい。		
3月 27日	火	健康・育児相談 11:00～12:00	小児科医師にゆっくり相談できます。		

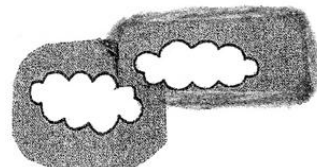
<p>・火～金の13時～16時までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み)</p>	<p>育児相談 (月～土) 9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活、入園・見学についての相談もどうぞ。</p>
---	--

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



みすゞさんの
うれしいまなざしより

雲のこども
風の子供のいるとこに
波の大人がいますとこに
波の大人がいますとこに
だのこどもはかわいそう。
雲のこどもはかわいそう。
大人の風につれられて、
いきをきらしてついてゆく。



24年3月3日(土)に、私たち「香川みすゞさんの会」念願のコンサートを開きます。地元オカリナ アンサンブル〈花音〉の皆様による演奏と私たちの会員による朗読でみすゞさんの詩10篇が紹介されます。またシンガーソングライターのちひろさんは8篇の詩を唄って下さいます。今月はその中からいくつかを「矢崎節夫と読む—金子みすゞ第一童謡集・第二童謡集」(JULA 出版局)よりご紹介します。



砂の王国

私はいま、
砂のお国の王様です。

お山と、谷と、野原と、川を、
おもう通りに変えてゆきます。

お伽ばなしの王様だって、
じぶんの国のお山や川を、
こんなに変えはしないでしよう。

私はいま、
ほんとにえらい王様です。

砂のお国の王様が、山と、谷と、野原と、川を、思うとおりに変えることができるように、みすゞさんにとって、童謡は、自分の考えたこと、思ったこと、気づいたことを、自分のことばで、思うとおりに書くことができる、「砂の王国」でした。

この作品は、第一童謡集『美しい町』の39番目に書かれています。ちょうど、「おさかな」と「打出の小槌」が、初めて『童謡』にのったころ

かもしれません。そう思って読むと、尊敬する詩人で、選者の西條八十にほめられ、はげまされたことの喜びが、そのまま表現されているような、みすゞさんの気持ちのたかまりが感じられます。



大正12(1923)年、雑誌『童謡』9月号にはじめてのつた、みすゞさんの出世作です。

「海の魚はかわいそう。」と歌っていますが、では、みすゞさんはかわいそうだから、魚を食べなかったのでしょうか。

いいえ、だから、いっしょうけんめい食べたのですね。

「食べ物、たいせつないのちのかたまりです」と、手紙をくれた5年生のお友だちがいましたが、ほんとうにそのとおりです。すべての食べものは、いのちのかたまりです。

このいのちのかたまりを食べなければ、わたしたちはだれ一人、生きてはいけません。

ですから、食事をするとき、「あなたのいのちを、わたしのいのちに生かさせていただきます」という感謝をこめて、「いただきます」というのですね。

わたしたちは、他のたくさんのいのちによって、今日一日を生かさせていただいているのです。このことを、しっかり覚えておきたいです。

おさかな

海の魚はかわいそう。

お米は人につくられる、
牛は牧場で飼われてる、
鯉もお池で麩を貰う。

けれども海のおさかなは、
なんにも世話にならないし、
いたずら一つしないのに、
こうして私に食べられる。

ほんとに魚はかわいそう。

このみち

このみちのさきには、
 大きな森があろうよ。
 ひとりぼっちの榎よ、
 このみちをゆこうよ。

このみちのさきには、
 大きな海があろうよ。
 蓮池のかえろよ、
 このみちをゆこうよ。

このみちのさきには、
 大きな都があろうよ。
 さびしそうな案山子よ、
 このみちを行こうよ。

このみちのさきには、
 なにかなにかあろうよ。
 みんなでみんなで行こうよ、
 このみちをゆこうよ。

一人で読むのもいいですが、友だちといっしょに声にだして読むと、元気がでてくる歌です。

「みんなでみんなで行こうよ、/このみちをゆこうよ。」と、みすゞさんがわたしたちによびかけてくれるような、うれしくなる作品です。

みすゞさんが通っていたころの大津高等女学校の前に、大きな蓮池があつて、ここに一里塚^{えのき}の榎が立っています。女学校への行き帰りに歩いた道は、右も左も田んぼで、案山子^{かかし}が立っています。

第一童謡集『美しき町』の「電報くぼり」や、この詩集の「学校へゆくみち」にも、この道がでできます。



大漁
 朝焼小焼だ
 大漁だ。
 大羽鰻の
 大漁だ。
 浜はまつりの
 ようだけど
 海のなかでは
 何万の
 鰻のとむらい
 するだろう。

みすゞさんの代表作です。この作品に出合わなかったら、わたしの16年間のみすゞ捜しの旅はありませんでした。この詩を初めて読んだとき、「わたしといわし」という人間優先のまなざしを、「いわしとわたし」にひっくり返されたのです。

それまでのわたしは、大漁といえば、魚がたくさんとれてうれしいとしか考えていませんでした。でも、みすゞさんが、「海のなかでは/何万の/鰻のとむらい/するだろう。」と歌ってくれたおかげで、いわし側から考えることができました。

「とられたいわしにも、友だちがいるんだ」と、話してくれた3年生の男の子がいましたが、ほんとうにそのとおりです。この子は、みすゞさんと同じに、いわし側から考えることができたのです。

みすゞさんは、「わたしとあなた」ではなく、「あなたとわたし」と、自分側だけでなく、相手側から考えることができた人です。だから、はてしなくやさしいのです。

わたしたちも、そんな人になりたいですね。



日の光

おてんとさまのお使いが、
そろって空をたちました。
みちで出逢ってみなみ風、
なにしにゆく、とききました。

ひとりのお使いいきました、
「ひかりの粉を地に撒くの、
みんながお仕事できるよう。」

ひとりはおんに嬉しそう、
「私はお花を咲かせるの、
世界をたのしくするために。」

ひとりのお使いやさしい子、
「私は清いたましの、
のぼる反り橋かけるのよ。」

残ったひとりは寂しそう、
「私は、影をつくるため、
やっぱり一しよにまいます。」

日の光のだいじな仕事の一つは、日影を作ることだったのですね。

この作品は、大正13（1924）年ごろに書かれたものですが、雑誌に発表したのは4年後の昭和3（1928）年、下関の文芸雑誌『燭台』の11月号でした。

そのころみすゞさんは、ご主人から童謡を書くことと、詩人の友だちとの文通をきんじられていました。

この時期に発表したということから、光のあたる詩人としてではなく、2歳になった愛児のために、母として、わが子を守り、育てようとした、みすゞさんの決意が読みとれます。



星とたんぽぽ

青いお空の底ふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまで沈んでる、
昼のお星は眼にみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

散つてすがれたたんぽぽの、
瓦のすきに、だアまつて、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根は眼にみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

目に見えるものより、目に見えないもののほうが、ずっと多いのです。

自分のまわりを見まわすだけでも、このことはわかります。目に見えるものは、地上にあるものがほとんどで、あとは目に見えない空気です。

この空気といのちがなければ、わたしたちは1分も生きていくことはできません。わたしたちにとって、いちばんたいせつなものは、目に見えないのです。

たいせつなものは目に見えない、ということ、わたしたちはわすれがちだから、みすゞさんは、わすれがちなわたしたちに思いだしやすいように、こんなすてきな作品を書ってくれたのです。

目に見えないものだけでなく、昼の星や、たんぽぽの根のように、かくれて見えないものをもふくめて、「見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ。」と、何度も口ずさんでいたいと思います。